

本日ここに、保護者ならびにご来賓の皆様のご出席のもと、令和 4 年度、国立高等専門学校機構鳥羽商船高等専門学校第 51 回「商船学科卒業証書授与式」ならびに第 15 回専攻科「海事システム学専攻修了証書授与式」を迎えて皆さんを送り出すことは、この上ない喜びです。

商船学科を卒業された航海コース 18 名、機関コース 19 名のみなさんは、中学校から高専に進路を定め、学生となり、高等教育の課程を修了し、準学士の称号を授与されました。また、専攻科海事システム学専攻を修了された 1 名におかれては、大学評価・学位授与機構の定めた条件を満たし学士（商船学）の学位を授与されました。本科商船学科を卒業する皆さんは、商船系大学の同期の学生よりも 2 年早く 3 級海技の海技者として本校を卒業し、打って出ることとなります。これは、各々のライフイベントを創り上げていくうえでも大きなアドバンテージとなります。

皆さんの今日までの不断の研鑽を称えますとともに、皆さんを物心両面から支えて来られた保護者の皆様に、心からお祝いを申し上げます。

社会経済は、気候変動と環境変化、国際社会が織りなす紛争、物材の大量消費国の動向、あるいは金利政策などの影響を受けて大きく変動しています。世界規模でより深刻なエネルギーや食料の問題に直面してゆくこととなります。2050 年には世界人口の約 4 分の 1 はアフリカにいる人たちと予想されています。世界は変わります。

国の海洋基本法にもとづいて 5 年ごとに策定される海洋基本計画、来る第 4 期では、脱炭素・DX に対応した海洋産業の競争力強化、ゼロエミッション船の導入、カーボンニュートラルポートの形成、また、自律運航船の実用化や港湾の電子化、慢性的なエネルギー問題を抱える我が国は、洋上風力や再生可能エネルギーの利用、資源調査に必要な海のドローン、水中ロボットの持続的な開発などに関心が集まっているようです。

「進歩のないものは決して勝たない」とある先人は言い残されています。船を動かすだけ、示された業務をこなすだけが将来ではない、船上にあっても、海外にいても、陸上での仕事においても、自らを取り巻く多くの情報を迅速に吸収整理して、目の前の仕事や、組織、自分自身のさらなる展開に活かして行ってほしい。この数年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって私たちは物流、あるいはロジスティクスの重要性を改めて思い知らされ

ました。そんな社会にみなさんは飛び立ちます。「広い視野をもって大きく羽ばたいてください。」

本校は、校祖近藤真琴（こんどうまこと）先生が明治8年（1875年）9月に芝新銭座二番地（現在の東京都港区浜松町）に航海測量習練所を創基してから数えて、創基150周年を迎える2025年を目途として「人づくりを通じて海づくり：海事・海洋DX、情報や機械のシステム産業と地域経済に貢献するキャンパス」に向けた取り組みを進めています。みなさんは、2025年になったら、ぜひ本校を訪れてみてください。そうして何かが変わっていることを見つけてほしいと思います。みなさんもさらに成長して変わっているでしょう。

ノーブレスオブリージェ「高貴なる者の使命」という言葉がある。選ばれし者は厳しい道徳観、倫理観をもって人々、民を守り、助けなければならないということです。

みなさんのバックヤードには、2025年で創基150周年を迎える鳥羽商船高専で学んだ、選ばれた総数7000人を超える卒業生・先輩の足跡と築かれた輝かしい業績があります。みなさんも選ばれた人たちです。Strength and Honor, ノーブレスオブリージェを実践してほしいと思います。